

「経年比較」について

授業改善推進プランでは、同一学年の「経年比較」を大切にしています。

中学校に入学した生徒たちの学力が、学年をあげるにしたがってどう推移したかを見ることで、改善の方策が妥当であるかどうかを判断するためです。

また、授業改善推進プランでは、「平均点」を経年比較するのではなく、「達成率（＝目標値を達成した生徒の割合）」を経年比較しています。

東京都教育委員会の「学力・学習状況調査結果分析」では、平均点ではなく、達成率の上昇が重要であるとされています。

熱心に学習に取り組む中学生が多くいる一方、学習に意欲を持ってない中学生も少なくないという、「二極分化」の傾向が課題となっているからです。

馬込中学校でも、学力の「二極分化」を起こさないよう、1人でも多くの生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、授業改善に努めます。

大田区では、経年比較のみ具体的な数値を記載します。（「昨年度から5%上昇している」など。）達成率や平均点自体は、文章表記となります。

○達成率：「非常に高い」「高い」「標準」「低い」「非常に低い」の5段階

○平均点（観点別）：「大きく上回っている」「上回っている」「標準」「下回っている」「大きく下回っている」の5段階



国語科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・文章について話し合い活動をしたり、小作文に取り組んだりすることで、自分の考えを深め、わかりやすく表現する方法を知ることができた。

(2) 課題

- ・相手の話を聞き、それに対してわかりやすく意見を述べることに課題が見られる。
- ・具体例と意見を関連させて説得力のある文章を書くことに課題が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	高い。昨年度から9.6%上昇している。	標準。	
第3学年	非常に高い。昨年度から34.6%上昇している。	標準。昨年度から7.8%減少している。	標準。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語知識・理解
目標値を上回っている。	標準。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語知識・理解
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を下回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語知識・理解
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語知識・理解
普段の授業で自ら参加できるよう個別に指導する。	話を理解しながら聞くために、目的をもって聞く姿勢を身に着けさせる。	正確に文章を書くことができるように、感想や小作文の実施を継続する。	文章の構成や展開を捉えることに課題が見えるので、重点的に指導を行う。	字形を意識して文字を書くことに課題があるので、基礎の反復学習を行う。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語知識・理解
自ら参加できるように、発表場面を工夫して設定し、個別に指導する。	話を正確に聞くために、メモを取りながら聞く姿勢を身に着けさせる。	小作文を実施し、3段落構成で文章を書く方法を身に付ける。	文章の構成や展開を捉えることに課題が見られるため、重点的に指導を行う。	小学校までの漢字を書くことに課題があるため、小テストを継続して実施する。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語知識・理解
おおむね良好である。関心を高めるため、自分自身と題材を結び付けて考えられるように指導する。	良好である。引き続き聞き取った内容から、自分の考えを説明できるように話し合い活動等を行う。	3段落構成で文章が作成できるよう、小作文を継続して実施する。文章の推敲に取り組む。	良好であり、今後も継続できるよう取り組む。	小学校までの漢字を書くことに課題があるため、小テストを継続して実施する。

数学科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全観点で目標値を上回ることができた。

(2) 課題

- ・第1学年は「百分率」に課題がある。
- ・第2、3学年は特定分野の課題は見られないが、引き続きわかりやすい授業の構築に努める。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	高い。昨年度から 17.3%上昇した。	標準。	
第3学年	非常に高い。昨年度から 12.7%上昇した。	高い。昨年度から 5.8%上昇した。	高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	標準

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ICTなどを活用した導入の工夫を続けていく。	3学年時の領域を横断した複合問題に課題が出る恐れがあるため、良質な問題提供を心掛ける。	効果的な問題演習を提供し、効率的な技能の習得に努める。	数学的定義をはっきりと理解させる。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ICTなどを活用した導入の工夫を続けていく。	3学年時の領域を横断した複合問題に課題が出る恐れがあるため、良質な問題提供を心掛ける。	効果的な問題演習を提供し、効率的な技能の習得に努める。	数学的定義をはっきりと理解させる。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
良好である。発展的問題に取り組もうとする意欲を高める。	領域を横断する複合問題についての思考を高められるように、良質な問題・課題を提供し、試行する機会を与える。	良好である。これからも定期的な単元テストなど取り組んでいく。	良好である。これからも数学的表現の定義の定着に努めていく。

英語科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・生徒が積極的に取り組むことができる学習形態を工夫し、関心意欲を高めることができた。
- ・ペアワークやグループワークを通して、表現の能力を高めることができた。
- ・各単元終了後に単元テストを実施し、基礎的な知識を身につけさせることができた。

(2) 課題

- ・単元テスト等を活用して基礎的な知識を定着させ、その知識を自己表現力へと結びつける。
- ・授業の中で英作文や発表といった自ら表現する活動を取り入れ、さらなる応用力を養う。
- ・長文の内容を理解する力を培うために、音読練習やワークシートを活用していく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第2学年	高い。		
第3学年	非常に高い。昨年度から25.3%上昇した。	高い。	

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

4月実施のため、1年英語は実施していない。

② 第2学年

関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が見られる。多くの人と会話ができるように、ペアワークやグループワークを取り入れる。	自己表現能力を高めるために、書く活動や発表する場面を多く取り入れる。	音読を多く取り入れ、文字と音の繋がりを意識する。また、意味を理解しながら音読できるように練習を行う。	単語の発音と意味の一致を目標とする。プリント等と活用し、文法の基礎知識の定着を図る。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解
興味・関心をより高められるような授業の工夫、ペアワークやグループワークを行う。	各単元で学習した文法を使い、自らの考えを書く練習を行う。そして、その内容を発表する機会を多く設ける。	音読を通して、文字と音を関連づけていく。また、プリントを活用して、長文を理解する力を高める工夫をする。	各パートが終わるごとにテストを行い、基礎知識の定着を図る。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解
興味・関心が強いので、その気持ちを高められるような教材を工夫する。	英語を聞いて答える力を養う。また、自分の考えを表現し、発表する場を増やす。	長文を理解する力を養うために、プリント等を活用しながら内容理解に努める。	単元終了後にテストを行い、教科書の基礎的な知識の定着を図る。

社会科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用し、視覚的・聴覚的教材を工夫して、関心意欲を高めることができたが、地図やグラフの読み取り、複数資料の活用に課題がある。
- ・歴史では文化や政治についての正答率が上がり、流れをつかむ部分で成果が見えた。
- ・範囲の中から出題する小テストを実施し、成果が出た生徒が増えてきた。

(2) 課題

- ・小テストに関しては、1・2年生の積み重ねが重要であるので昨年以上に回数を増やし、知識理解の定着を図る。
- ・世界の諸地域や日本のついでに産業、貿易について理解や読み取る力に課題が見えたので、図やグラフ・写真などの資料を使って定着を図る
- ・歴史においても資料を読み取る力とそれを表現する力を磨くことが必要であり、授業内で積極的に資料提示をしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	標準。		
第2学年	標準。昨年度から3.1%減少した。	標準。	
第3学年	高い。昨年度から19.9%上昇した。	標準。昨年度から9.5%減少した。	高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
標準。	標準。	目標値を上回っている。	標準。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	標準。	標準。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
資料を読み解く部分に課題が見られたので、授業中に課題解決学習を取り入れる回数を増やす。写真、電子黒板への投影を活用する。	資料を読み取り、それを示し、考え、表現する活動を多く取り入れる。	歴史・地理両方とも複数の資料を活用し、習得した知識と結びつけられるような問題を授業内で出題する。	語句の意味や位置の理解に課題が見られたので、家庭学習を通じて定着を図る。前時復習テストの回数を昨年より増やす。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
良好である。引き続き電子黒板を活用し、導入を工夫していく。	良好であるが、対話的な活動があまり実践できていなかったため、今後実践していく。	歴史・地理両方とも複数の資料を活用し、習得した知識と結びつけられるような問題を授業内で出題する。	語句の意味や位置の理解に課題が見られたので、家庭学習を通じて定着を図る。前時復習テストを昨年より増やす。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値は上回っているため概ね良好である。ほぼ毎回実施していた小テストが要因と考えられるので、継続していく。	目標値は上回っているため概ね良好である。歴史分野では対話的な学習が少なかったため、公民分野では回数を増やしていく。	目標値は上回っているため概ね良好である。資料を読み取る活動を増やし、自分でまとめる力を養う。グループで考えを共有する活動を増やしていく。	目標値は上回っているため概ね良好である。引き続き小テストなどを行い、定着を図る。

理科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3年生では、用語テストを行い、基礎事項の定着をはかった。
- ・実験や観察をなるべく行い、興味・関心・意欲を高めるよう工夫した。

(2) 課題

- ・3年生ではグラフの書き方の定着率が低いので、グラフを書く時にくり返し書き方を確認する。事象や現象がどのようにして起こっているかの理解が低いので、授業で事象や現象がどのようにして起こるのかを考えさせたり、説明させたりする場面をつくる。
- ・2年生では、用語を定着させるために、用語テストを行う。また、既習事項を日常生活と結びつけて考える力が弱いので、日常生活と結びつけて話をしていく。
- ・1年生は、これからの中学校の理科学習で、より学習意欲・理解力を高められるようICT機器なども活用しながら、授業の内容や教材の工夫を行う。
- ・各学年とも教える内容を日常生活に関連させながら、理科を身近なものとしてとらえさせ、主体的に学習しつつ、より興味・関心を深めさせられるよう授業を進める。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	標準。		
第2学年	標準。昨年度から7.1%上昇した。	標準。	
第3学年	標準。昨年度から11.1%上昇した。	標準。昨年度から13.6%減少した。	標準。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
標準。	標準。	目標値を上回っている。	標準。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
標準。	標準。	標準。	目標値を下回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
標準。	標準。	標準。	標準。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・実験の内容や教材を工夫したり、ICT機器を活用して、身近な自然現象に関する話題を題材にしたりするなどして中学校の理科の学習への興味 ・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な見方や考え方を養うことができるよう考える時間を大切にす。 ・習ったことを使って考えることや説明する発問や問題を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な器具の使い方や実験の操作を繰り返ししたりしながら、技能の定着を図る。 ・レポートの結果を正しくかけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の定着をはかるため、単元ごとに小テストを行う。 ・基礎事項に関しては、練習問題を通して、定着を図りたい。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・身近なことを題材として、ICT機器も活用しながら、中学校の理科の学習への興味・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な見方や考え方を養うことができるように習ったことを使って説明する機械をふやす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な器具の使い方や実験の操作のビデオを見る。実験ができるものは、操作の確認し正しく行えるようにする。 ・実験に集中させ、安全面にも気を配るよう指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の定着をはかるために単元ごとに小テストを行う。 ・基礎事項については、練習問題を通して、定着をはかる。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用したり、身近な話題を題材にしたりするなどして学習への興味関心を高める。 ・3年の内容と関連付けながら1，2年の内容を振り返らせ、学習への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考を刺激するような発問を工夫し、考えさせる時間を多くとれるようにして、結果がなぜそうなったかなどの説明ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な器具の使い方や実験の操作の再確認を行い、正しく正確に実験を行うことを定着させる。 ・考えながら集中して実験を行う姿勢を定着させ、結果を考察に結びつけられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年の学習の内容と関連させながら、1，2年の内容も振り返りながら指導を行う。 ・小テストなどを行い、繰り返し学習する機会を多くすることで、基本的事項の定着を図る。

音楽科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業に対する関心・意欲・態度が良好である。

(2) 課題

- ・表現の創意工夫に関しては、理解したことを演奏に組み入れることが課題である。
- ・表現の技能に関しては、より豊かな表現力を身につけることが課題である。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
聴く（聞く）、書く、読む、歌う、吹くという流れにのれない生徒がいる。 基礎・基本の定着に欠ける。	楽曲内容を知識として理解しているが、それを演奏で表現することはまだ十分でない。	歌唱表現に必要な姿勢、発声等の基本となる力が身につけていない。器楽で基本運指ができていない生徒がいる。	その曲に対する知識・理解を深めたい。 ワークシート記入などの活動を通して多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てたい。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
基礎・基本の定着に欠ける。集中して授業に取り組む姿勢が身につけていない生徒がいる。	創意工夫のために必要な知識・理解が乏しい。	歌唱表現に必要な姿勢、発声等の基本となる力が身につけていない。器楽で基本運指ができていない生徒がいる。	鑑賞曲から何を学び、何を感じ取るのか。 注目する点を理解するまでに時間がかかる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
どの課題も落ち着いて、よく取り組んでいる。	楽曲内容を知識として理解しているが、それを演奏で表現することはまだ十分でない。	楽曲を正確に演奏しようとしているが、豊かに表現するまでには至っていない。	その曲に対する知識・理解は全体的に高い。ワークシート記入などの活動により成果が表れている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> 授業内容と目標を明確に伝える。 歌唱、器楽、鑑賞、提出物に至るまで、ひとつひとつ確認しながら進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 実技表現への苦手意識をもつ生徒たちへの自尊意識を高める指導をする。 歌唱の内容を感じ取り、表現を工夫して歌う。 	興味深く体験できる基礎発声や基礎運指を毎授業で繰り返し練習し、基礎・基本の習得を図る。	音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> 集中して授業に取り組む姿勢が必要である。 わかりやすい説明、ワークシートや視聴覚機器の活用により関心を高める。 	多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。	器楽の活動を通して、楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身につけて演奏する。	鑑賞教材は我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導に適切なものを扱う。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	鑑賞の能力
興味深く体験できる基礎発声や音楽の基本を毎授業繰り返し、基礎・基本の習得を図る。	歌唱の活動を通して、歌詞の内容を感じ取り、表現を工夫して歌う。	多様な音楽の良さや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	音楽を形作っている要素や構造と、曲想との関わりを感じ取って聴き、音楽で表現するなどして、音楽の良さや美しさを味わわせる。

美術科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分や他者の作品のよさを認める力が向上した。
- ・一生懸命に取り組んだことで基礎的な技能を修得できた。
- ・美術を愛好する心情がより強くなった。

(2) 課題

- ・意欲的に取り組む姿勢を全体に定着させる。
- ・豊かに発想する力を伸ばす。
- ・根気よく取り組みながら技能を定着させる。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
課題を理解して取り組めるが、授業規律の定着には引き続き取り組む必要がある。	発想や構想を自由に楽しみ、表現できる生徒が多い。	基礎的な技能に関して理解し創作活動の中で実行できている。	まだ自他の作品についてのよさを認める力が弱い。関心をさらに深めさせたい。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
課題を理解し真面目に取り組む姿勢が備わっている。落ち着いて取り組めるようになった。	発想や構想で悩む生徒はいるが、意欲的に向き合えるようになった。	基礎的な技能を生かして創作に活用できるようになった。	他者の作品の良さを認められるようになった。自身の作品についても自身をもたせたい。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
積極的に質問をしながら制作し、意欲的に作品を向上させようと取り組む姿勢がある。	発想や構想を練る際に思い悩むことが多い。	基礎的な技能を学び、上手く活用しようと努力している。	よさや美しさに気付くことはできるが、心情を想像したり感じたりする、力を身につけることが課題。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
達成感や楽しさを味わえるように、作品へ働きかけたことによる変化や、良さに気づかせる。	発想を膨らませる手立てや、アイデアのもとになるような資料の提示をする。	修得した基礎的な技能を継続して正しく使えるよう、定期的な確認や声かけをし、最後まで丁寧に組みませる。	身近なものに結びつけたり、画像を提示したりして、興味を持たせることで定着を図る。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
達成感や楽しさを味わえるように、作品へ働きかけたことによる変化や、良さに気づかせる。	発想を膨らませる手立てや、アイデアのもとになるような資料の提示をする。	修得した基礎的な技能を継続して正しく使えるよう、定期的な確認や声かけをする。	身近なものに結びつけたり、画像を提示したりして、興味を持たせることで定着を図る。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
達成できる目標を示して、より意欲を高めさせる。	参考作品などからヒントを与え、様々な手がかりをもたせる。	正しい使い方によって生じる成果を示し、丁寧な作業を促す。	ワークシートの活用やグループ対話などを入れて、意見を深められるようにする。

保健体育科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・課題解決に向けた、自分に必要な練習方法を考える力を身に付けさせることを課題に取り組んできた。コロナの影響で種目が制限され個人種目を行うことが多かった。自らの目標設定をさせ、自分に必要な練習方法を考えながら、技術向上を目指すことができた。
- ・グループ活動を行う機会が取れず自分の考え伝えることや他人の考えを聞く場面はなかったが全体を通して、仲間にカードに記入して伝えることができた。

(2) 課題

- ・個々の体力を向上させるために、運動量を増やす必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染防止に努め、3密に気をつけながらグループ学習を増やしていく。自己や仲間の良さや課題を見つける時間を増やしていくことが課題である。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
指示を待つのではなく、自分たちで集合や準備、片付けなど素早く行い、意欲的に学習に取り組む生徒がほとんどである。健康・安全に留意し、仲間と協力しながら授業に参加できた。	自己の技能を把握し、課題解決に向けて、練習方法を考えて取り組む力や、仲間の良さを認め、自分の考えを相手に伝える力を身に付ける必要がある。	真面目に取り組み、自己の技能・記録を伸ばそうと努力した。個人の運動能力に大きな差がみられる。都全体の1年生と比較すると記録は低い全員が努力している。	生涯にわたり健康な生活を送るため、運動を行ううえで必要な知識や効果を学習し、定着してきている。保健の学習にも積極的に取り組んでいる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
集合に時間がかかり、指示が一度では通らない。リーダーを育て意欲的に授業に取り組む生徒を中心に活動させる。それぞれが自覚を持った行動をとれるようにする。	目標を明確に設定すると、活動することができる。自分たちで課題解決に向けて練習方法を工夫することが課題である。安全を留意した行動がとれない生徒もいるので徹底していく。	自己の技能を認識し、根気強く継続して取り組むことで技能向上に努めている。仲間同士で教え合い、向上心を持って取り組むことに取り組みせていくことが必要である。	生涯にわたり健康な生活を送るために必要な知識を学習している。自らの生活に直接的に関わる内容だと進んで学ぶことができる。満足のいくところまでは達していない。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
準備運動や補強運動に意識をもって取り組むことができ、意欲的に学習に取り組む生徒が多く見られる。自他の健康・安全に留意し、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。一部、すぐにふざけてしまう生徒もいる。	自己の技能を認識し、課題解に向けて練習方法を工夫することができる。また、適切かつ安全な行動をとることができるようになってきた。生徒が規範意識をもった行動が実践できている。	基本技能を習得し、課題解決に向けて、自分に必要な練習方法を工夫して取り組むことができる。仲間の良さを認め、コミュニケーションを図り、教え合うことができる。	生涯にわたり健康な生活を送るため、また運動に親しむために必要な知識を学習し、定着してきている生徒が多く見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自己の技能や体力を把握させ、自ら課題を見つけ、自主的、主体的に学習に取り組ませる。互いの健康・安全に注意して行動できるようにする。	単元や種目に応じて、自己の課題を認識し、課題解決に向けて、練習方法を考えることができるようにする。仲間と協力して取り組める場を多く設定し、指導にあたる。	つまずきのある生徒に対し個別に対応するなど、生徒一人ひとりが自分にあった目標を設定し練習に取り組ませる。DVDなどを活用し、自らの動きの参考とさせる。	自己の健康について意識を高め、体育の授業、普段の運動などと関連させて、運動の効果を理解させる。健康や運動、スポーツに関する情報やニュースに関心を持たせる。心身の機能の発達をしっかりと理解させる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自己の技能・体力を理解させ、自己の課題を見つけ、自主的・主体的に学習に取り組ませる。互いに助け合い、教え合うことを継続して行えるようにする。時間やルールを守る意識を高めさせる。	自己の目標に応じた練習方法を考え、実行することができるようにさせる。規範意識を高め、授業や学校生活において実践できるようにさせる。集団としての動きを身に付けさせる。	習得した基本技能を応用し、より高い目標を設定させ取り組ませる。仲間同士で教え合い、お互いの良さを認め合い学び合うことができるようにさせる。	種目に応じた準備運動や、必要な体力を理解させ、自己の健康についての意識を高める。また健康に関する情報やニュースに関心を持たせる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自己の技能・体力を理解させ、自己の課題を見つけ、自主的・主体的に学習に取り組ませる。互いに助け合い、教え合うことを継続して行えるようにする。互いの良い部分を認め合う時間を作る。	種目に応じて、自己の課題を認識し、課題解決に向けた練習方法を設定し、実行する力を身に付けさせる。安全に留意して行動できるようにさせる。	習得した基本技能を応用し、実践を通してステップアップを目指す。仲間同士で教え合う場面を多く設定し、互いの技能を高め合ったり、より高度な戦術を立てさせたりする。	種目に応じた準備運動や、必要な体力を理解させ、自己の健康についての意識を高める。また健康に関する情報やニュースに関心を持たせる。けがの予防により一層努める。

技術・家庭科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技術・家庭科へ強い関心をもち意欲的に活動することができている。
- ・生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能はおおむね身に付けている。

(2) 課題

- ・身近な技術や生活について、自らの意見をまとめ、表現することにやや課題が見られる。
- ・意欲的に活動し、生活に必要な基礎的・基本的な技能はおおむね身につけているが、適切な道具の使い方や周囲への配慮など、安全面でやや配慮にかけることがある。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	技能	知識・理解
教科に対する関心は高いが、授業への取り組み方や姿勢で課題が見られる。	学んだことを生かして自分の考えを表現することが苦手である。	適切な道具の使い方や周囲への配慮など安全面で配慮に欠けることがある。道具や材料の特性を理解しないで作業をするとここに課題が残る。	基礎的・基本的な知識の定着が十分ではない。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	技能	知識・理解
教科に対する関心は高いが、授業への取り組み方や姿勢でやや課題が見られる。	自分の意見を表現することはできるが、学んだことを生かした表現が苦手である。	適切な道具の使い方や周囲への配慮など安全面で配慮に欠けることがある。	基礎的・基本的な知識の定着が十分ではない。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	技能	知識・理解
授業に取り組む姿勢や、教科に対する関心は十分に満足できる。	学んだ知識をもとに自らの考えを表現することができている。	道具や材料の特性を理解しながら作業ができているが、安全な作業という点では課題が残る。	基礎的・基本的な知識の定着は十分に満足できる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	技能	知識・理解
授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。	活発に表現する姿勢はさらに伸ばす指導を行う。自らの意見をまとめ、記述や発表などで表現する機会を多く取り入れる。	適切な難易度の課題を導入し、より高い技術の習得を目指す。	機器や機材を効果的に活用する。とくに基礎的・基本的な内容を重視し、丁寧に重点事項を説明する。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	技能	知識・理解
授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。	活発に表現する姿勢はさらに伸ばす指導を行う。学んだことを活用する機会を積極的に作り、制約条件がある表現活動を多く取り入れる。	安全への意識を重点的に指導し、道具の特性を理解しつつ安全に使用する力を養う。	機器や教材を効果的に活用する。とくに基礎的・基本的な内容を重視し、丁寧に重点項目を説明する。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	技能	知識・理解
生徒が自ら進んで学びを深められるような授業を展開する。	近年の社会問題を問題提起し、技術と経済・環境との関係から自らの意見をまとめ、記述や発表などで表現する機会を取り入れる。	道具や材料の特性の理解することが技能の向上に直結することを体験的に学ぶことができる課題を導入する。	機器や教材を効果的に活用する。とくに基礎的・基本的な内容を重視し、丁寧に重点項目を説明する。